

女性ならではの取り組みで地域安全に貢献

地域で活動する女性消防団員の活性化大会が2月13日、ウエルネス交流プラザで開催されました。市内外から関係者ら約300人が参加。女性消防団活動の魅力を伝えるために地域で行っている啓発活動発表のほか、延岡市女性消防団員が防災啓発劇などを披露しました。伊藤香奈子さん（鷹尾三丁目）は「県内の団員と交流することで情報交換ができた。他市の女性消防団員の取り組みを参考にしながら、高齢者や子どもたちへの啓発活動をより充実させていきたい」と、消防活動に対する意識を高めていました。



女性消防団員活性化大会

生涯にわたり学びを深める

市では、市民一人一人が学びについて考え、理解と関心を高める原点の日として、毎年2月18日を「都城教育の日」に制定しました。これを受けて2月20日、総合文化ホールで制定記念式典が開催されました。小中学生や関係者ら700人が参加。「学び」を象徴する教育の日のシンボルマークを製作した児玉聖さん（山田中3年）らの表彰や、記念講演が行われました。このほか、黒木哲徳教育長が「都城教育の日」宣言文を読み上げ、参加者らは、生涯にわたって学びを深め、都城の未来を担う人材となることを誓いました。



「都城教育の日」制定記念式典

伝統と新たな芸術作品で魅力高まる

都城弓製造協同組合の会員制作の飾弓と、ポールペン画の愛好家大田透さん（年見町）の描いた風景画が2月13日、都城島津邸へ贈られました。飾弓を制作した楠見純寛さん（早鈴町）は「伝統的な巻き方で編んだ一張り。弓のまち都城と、都城大弓のPRに役立てほしい」と力を込めていました。



シオノギ製薬女子ソフトボール都城キャンプ

優勝目指し熱の入ったトレーニング

シオノギ製薬女子ソフトボール部の都城キャンプが2月19日から25日まで、高城運動公園野球場で行われました。昨年は2部リーグで全勝し、見事1部復帰を果たした同チーム。選手らは、12回目となる都城キャンプで、さらなる飛躍に向けて汗を流しながら、白球を追いかけました。



都城島津邸への飾弓と絵画の寄贈

住みやすいまちが完成

高崎町の都市計画事業である新田土地区画整理事業の完了記念式典が、2月24日に行われました。良好な市街地の形成と住宅地の利用促進を図るために、平成8年度から実施された同事業。式典では、事業に携わった人たちへの感謝状の贈呈や、記念碑の除幕式が行われ、事業の完了を祝いました。



新田土地区画整理事業完了記念式典

助け合いの輪が広がる

地域福祉の向上に貢献するボランティア団体が集うみやこんじょボランティアフェスティバルが3月13日、南九州大学都城キャンパスで開催されました。会場内に、活動内容を紹介するパネル展示や親子で楽しめる体験コーナーを開設。また、東日本大震災で被災した障がいのある人とその家族などの証言をつづつた映画「逃げ遅れる人々」が上映されました。募金活動のボランティアで参加した岩橋一真さん（庄内中2年）は、「活動することによって笑顔が生まれる。助け合いの輪を広げていきたい」と話していました。



ボランティアフェスティバル

笑顔あふれるまちに

身近な課題を自ら解決する山之口まちづくり協議会の設立総会が3月14日、山之口勤労福祉センターで開催されました。自治公民館長や地域サポーターらが参加。全体スローガン「人と人 えがおでつなぐ 山之口」を掲げ、設立までの経緯や3部会の事業計画案が説明された後、山之口町内の児童・生徒らから応募があったロゴマークとスローガンの最優秀賞者の表彰が行われました。下西勝彦会長は「町内全ての団体と住民の皆さんと力を合わせながら、笑顔あふれるまちを作りたい」と、思いを語っていました。



山之口まちづくり協議会設立総会

努力の成果を笑顔で報告

知的障がいのある人が、誰でも参加できるスペシャルオリンピックス。その全国大会に出場した選手らが3月2日、岩崎副市長を表敬訪問しました。選手らは、スノーシューを履いて雪上を走る100メートルに出場。獲得したメダルを手に、達成感あふれる表情で喜びを語っていました。



映画「あん」の上映

主演作品にかける思いを語る

本市出身の俳優永瀬正敏さんが主演する映画「あん」の上映が2月28日、ウエルネス交流プラザで開催されました。来場者らは、スクリーンに映し出される出演者の迫真の演技に引き込まれていました。また、トークショーでは、永瀬さんが役作りのために実践したことや撮影秘話などが語られました。

仕上がり自信深める

国の重要無形民俗文化財指定の山之口麓文弥節人形浄瑠璃の定期公演を前に、麓小学校5・6年生19人が3月5日、人形の館で最後の練習に臨みました。6月から練習を重ねた児童らの出来に、保存会会員からは「過去に例のない良い仕上がり具合。本番での上演が楽しみ」と、太鼓判が押されました。



山之口麓小子ども人形浄瑠璃



スペシャルオリンピックス出場選手表敬訪問

夢の実現に向けて
木工技術の腕を磨く



田部謝恩財団特別賞受賞

大野 美沙希さん



大野さんは、ちようつがいを利用し、用途に合わせて3通りに形を変える箱「3WayBox」を製作。「予選会よりも良い作品ができたが、細かい段差ができてしまった」と改善点を話します。また、作品の出来映えと併せて、プレゼンテーションも評価される

競いました。今大会のテーマは「学習机の上の書籍や文具類を整理収納できる作品」。全国から地方予選を勝ち抜いた16人の腕自慢が出場しました。中でも大野さんを含めた5人は、2年連続出場を果たしたほどの強豪揃い。指定された木材が準備され、事前に書いた設計図を基に、愛用の道具を巧みに使って制限時間内に作品を製作し、技術を競いました。

中学1年生の技術家庭科の授業で、CDラックを製作したことを切っ掛けに、木工の楽しさを知った大野さん。勉強の傍ら、放課後や週末に木工製作の練習を重ね、技術を磨いてきました。

も のづくり教育の発展・充実に目的に、全日本中学校技術・家庭科研究会が主催する、全国中学生創造ものづくり教育フェア木工チャレンジコンテスト。1月に東京都で開催された同大会で、田部謝恩財団特別賞を受賞したのが大野美沙希さん（西中学校3年・3月現在）です。



同大会。大野さんは「ただ作品を作るだけではなく、その特徴やアピールポイントを、効果的に表現する工夫も大切だと感じた」と振り返ります。4月からは、都城工業高等学校に進学し、木工の技術をさらに磨きたいと意気込む大野さん。「木工との出会いで目標ができた。将来の夢は、依頼されたオリジナル家具を製作する木工家具職人」と目を輝かせます。そして「次回は、高校生が対象の木材加工部門のコンテストで1位を取りたい」と新たな目標を見据えています。



地域おこし協力隊だより Vol.3

地域外の人材を活用して、地域の課題解決に向けた取り組みを進める、「地域おこし協力隊」制度。今回は、高崎地区で活性化や移住・定住の促進、婚活支援などに取り組み大原千佐子さんの報告です。



地域おこし協力隊に 応募した切っ掛け

東日本大震災直後の東京では、スーパーなどから食料品が姿を消しました。当時、東京で生活していた私は、食べ物も買うことができず、このことが切っ掛けとなり、ライフスタイルを見直そうと考えようになりました。

自然に近い場所で、野菜作りや里山の生活を学びたいとの思いから、高崎地区の地域おこし協力隊に応募。この地に移住し、一年半が経過しました。今回は、この間に私が、この地区の「良いと感じた点」3つと「もったいないと感じた点」1つを紹介します。

生活する中で感じた

「良い点」と「もったいない点」

まず「良い点」の一つ目は、身近に畑や田んぼが広がる環境で、季節を感じながら食べ物を得られることです。作り手との会話から育て方が確認でき、安全安心な野菜が手に入る環境は魅力です。

二つ目は、田舎暮らしの先輩から、農機具の使い方や山菜の知識、野菜の栽培方法などを直接現場で学べることです。土や竹などを提供してもらうことで、資源の有効活用も学んでいます。

三つ目は、安全安心な子育て環境です。私が住んでいる笛水での子ども遊び場は、畑や山、川などで、都会とは大きく異なります。みんなが気軽にあいさつを交わす環境で、子どもたちも、親以外の大人たちと信頼関係が築けます。

そして「もったいない点」は、お金に換えられない豊かな自然の恵みを楽しんでいるにも関わらず、その素晴らしさに気付いていない人が、たくさんいることです。

すばらしい地域の人たちとともに

この一年半、協力隊の活動を通して、高崎地区の自然の恵みを知るとともに、すばらしい出会いがありました。高崎地区は、夏祭りなどのイベントも多く、活躍する人も多くいます。今、私は、高崎の人たちとともに、地域おこしの取り組みを進めています。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

タケノコは、食物繊維やカリウムを多く含む食材。便秘解消や高血圧の予防に効果があります。

材料 (5人分)

米	2合	タケノコ、ニンジン、		
昆布	1枚	ゴボウ	各 50g	
A	塩	ひとつまみ	干しシイタケ	10g
	薄口しょうゆ	大 1/2	C	だし汁(戻し汁)
酒	大 1/2	酒		大 1
卵	卵	2個	砂糖	大 1/2
	塩	小 1/6	しょうゆ	大 1
B	酒	大 1	シーチキン(水煮)	70g
	砂糖	小 1/2	グリーンピース	50g

●下準備

- 米…………… 洗って水に浸しておく
- タケノコ、ニンジン …… 小さく切る
- ゴボウ…………… 小さめのささがきにする
- 干しシイタケ…………… 水で戻し、小さく切る
(戻した水はとっておく)
- シーチキン…………… 水気を切る
- グリーンピース…………… 熱湯でさっとゆがく

●作り方

- ①米に昆布とAを入れ、分量の水を加えて炊く
- ②卵にBを加え、小さな炒り卵を作る
- ③鍋にタケノコ、ニンジン、ゴボウ、干しシイタケ、Cを入れ煮含める。汁気が少なくなったら、シーチキンを加え、汁気がなくなるまで煮る
- ④炊き上がったご飯に、③を加えて軽く混ぜ合わせ器に盛り、卵とグリーンピースを盛り付ける

**盆地生まれの
元気をいただきます!**

春のまぜご飯

※1人分 302kcal、塩分1.39

1日の野菜摂取量は350g

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765